

日中経済交流研究会 12月例会

11月訪中団“武漢”の 現状報告

～今後の日中間の中小企業のあり方

報告者 (株)荻田建築事務所 荻田 晃久氏
 アジাপランニング(株) 近藤 淳氏
 (株)豊田製作所 豊田 浩二氏

日時 12月12日(木曜日)18時30分より

場所 道頓堀ホテル **参加者数** 24名



▲ 例会風景

訪中団に参加した(有)天満合同会計の大塚さんの自作スライドショーの映像と音楽が、武漢を身近に感じさせる中、12月例会が開催されました。今回は、訪中団参加者3名による報告例会です。

まず、初めて訪中した荻田さんから、武漢が発展を遂げた沿海部ではない内陸部にもかかわらず、日本のバブル期のような建設ラッシュで、活気にあふれていることと、想像していたよりは反日的な雰囲気になかったことが報告されました。そして、今後も中国だけではなくその他のアジア諸国も訪問して、自分の目で確かめることの大切さを語られました。

続いて、ネジや建築金物を海外から輸入されている近藤さ

んです。近藤さんは、現在京都大学経済学部博士課程に在籍中ということもあり、鋭い視点で訪中報告がされました。特に、「中国沿岸部で見られる大阪の中小企業の影は、内陸部にはない」という言葉には、少なからず衝撃を受けました。私は、安価な労働力に支えられた中国製品の輸入というビジネスモデルが通用しなくなる時が、近づいていると痛感させられました。

三人目は訪中委員として、この訪中団を下見から支えていた豊田さんです。今回の訪中では、従来の企業訪問だけでなく大学訪問という新しい取り組みをしたことの報告です。訪問したのは武漢を代表する华中科技大学と华中科技大学文華学院です。文華学院では、学生と訪中団の参加者が昼食を共にして交流を図ったこと。そして、樋爪会長が100名近くの学生相手に90分の即興の講義をしたことを聞きました。学生の印象は、日本語を活用してどんな仕事につけるのかという不安を口にしながらも、「純粋」「素朴」だったそうです。武漢では近藤さんの報告にあったように日本企業の進出が少ないことが、学生に就職への不安を与える要因になっているのだと思いました。講義のエピソードとして「私は一生懸命に勉強すると疲れます。なぜ日本人は一生懸命にしても疲れないのですか?」と樋爪会長に質問したそうです。これには会長も返答に困ったそうです。日本人と中国人の根本的な相違なのでしょうか。この相違を埋めるのではなく、相違をお互い理解して新たな共通点を見つけることが大切だと思いました。今後、企業訪問だけではなくこういう文化交流が、日中間の将来融和への草の根運動になっていくという可能性を感じました。

例会では、三者三様の借り物ではない言葉での報告を聞くことができました。感性、鋭い視点、新しい取り組みにあふれている訪中団に、2014年はぜひ参加したいと思いました。

文：大山印刷(株) 大山 武久



▲ 荻田 晃久氏



▲ 近藤 淳氏



▲ 豊田 浩二氏